

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463400

研究課題名(和文)患者目線に立った糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践能力育成方法の開発

研究課題名(英文)Development of practical skills of nurses promoting diabetes medical team care from patient's perspective

研究代表者

多崎 恵子(TASAKI, Keiko)

金沢大学・保健学系・准教授

研究者番号：70345635

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：糖尿病看護に携わっている看護師848名から有効回答を得、糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標25項目の信頼性と妥当性が確認された。これらは「看護的視点からチームへ表明し発信」「糖尿病をもつ患者の心身と生活をふまえ支援」「チームとして患者と家族を含む意識」「チームメンバーの尊重と育み合い」4因子で構成された。これにより自己評価と解説から成るe-learning教材を作成、看護師183名が初回学習した。本教材は看護師に役立つ8割、新たな気づきを得た7割との評価を得た。自己評価点が最も低かった「看護的視点からチームへ表明と発信」であったが今後の教育による看護師の意識と行動の向上が期待される。

研究成果の概要(英文)：We obtained valid responses from 848 nurses engaged in diabetes care and confirmed the reliability and validity of 25 practical indices of nurses who promote diabetes team medical care. These are composed of four factors expressed by "Expressing to the team from nursing point of view", "Supporting the mind and body of patients with diabetes mellitus", "Consciousness including patients and families as a team", "Respect and nurture of team members mutually". Based on this result, we made e-learning teaching materials consisting of self-evaluation and commentary, and 183 nurses first learned. It became clear that this educational material was evaluated as 80% useful for nurses, 70% who got new awareness. "Expressing to and expressing to the team from the viewpoint of nursing" with the lowest self-evaluation point was expected, but improvement of awareness and behavior of nurses by this education is expected in the future.

研究分野：糖尿病看護

キーワード：糖尿病 チーム医療 看護師 e-learning 教材 教育介入

1. 研究開始当初の背景

超高齢社会を迎えたわが国では高齢化に伴い糖尿病人口も増加している。糖尿病は生涯コントロールが必要な慢性疾患であるが、糖尿病と診断されても合併症予防やその進展防止により患者の生命予後やQOLは向上する。そのためには日々の療養生活の仕方が重要であり、そこに生活者の視点から看護の専門性が最も発揮されなければならない。近年コメディカルから成る日本糖尿病療養指導士が17,000人に達し各専門職種の特徴を活かした糖尿病チーム医療が活性化してきている。平成24年度から透析予防診療チームが透析予防に係る指導管理を行った場合に糖尿病透析予防指導管理料が算定されるようになり、国の施策がチーム医療に注目するようになった。

しかしながら、最も患者の生活に寄り添い患者を擁護できるとされる看護師自身が糖尿病チームにおいてどのように活動すればよいのか戸惑っている現状が報告されている(多崎ほか:2007)。また看護師がチームを調整しチームと連携する従来の在り方では、看護の専門的役割を十分に果たせてはいない現状がある。さらに看護師が多職種医療チームを患者目線に立って促進することに着眼した取り組みは国内外ともに皆無である。そこで本研究は、糖尿病医療における多職種チームにおいて、看護師が果たす専門的役割にプラスした従来とは異なった能力すなわち「糖尿病チーム医療促進能力」を位置づけ、その能力育成について探求する。看護師が患者の視点からチーム全体に発信しチームをダイナミックに動かしていくには、これら能力の必要性が明らかとなった。先行研究において、「患者目線に立った糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標」を作成しており、本研究ではこれを基盤に、看護師の実態を明らかにし、そのうえで患者目線に立った糖尿病チーム医療の促進能力を育成する方法を開発・構築する必要がある。

2. 研究の目的

“患者目線に立った”糖尿病チーム医療を促進するために重要な看護師のリーダーシップ能力およびコミュニケーション能力の育成方法を開発し構築していくことを本研究の目的とする。

A. 「患者目線に立った糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標」を用いてアンケート調査し看護師のチーム医療促進の実態およびリーダーシップ能力・コミュニケーション能力(論理的思考力・アサーション力・交渉力等)の実態との関係を明らかにする。また、本指標の信頼性・妥当性を確認し教材の内容として活用できるようにする。

B. 看護師のチーム実践促進能力を確定し、

育成のための教育内容・方法を検討・試行する。

研究の方法と研究成果は、先に目的A、引きつづき目的Bの順で、以下に述べる。

A. 糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標 25項目を用いた糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践の実態と信頼性・妥当性の検討

3. 研究の方法

医療施設に勤務し糖尿病看護に携わっている看護師を対象に自記式質問紙調査を行った。770施設の看護部長に文書にて研究協力依頼をおこない、協力可と回答した223施設に対し申請された人数分の調査用紙を送付した。個々の看護師への配布は看護部長に一任、回収は看護師が調査用紙を受け取った後、研究者へ個別返送するよう依頼文に記載した。

(1) 調査項目

基本属性、糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標 25項目、ソーシャルスキル尺度 27項目(樋口ら)、批判的思考態度尺度 33項目(平山ら)、糖尿病教育スタイル自己評価 18項目(Tasaki et. al.)、看護師のチーム連携状況の実態

(2) データ分析方法

実態は記述統計を行い、関係については²検定、t検定を行った。信頼性・妥当性の検討には探索的因子分析とCronbachの α 係数の算出を行った。有意水準は $p < 0.05$ とし、統計処理はSPSS ver.19.0を用いて行った。

(3) 倫理的配慮

本研究は本学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 看護師のチーム医療の促進の実態とチーム連携状況

返送された1115名中1020名の有効回答を得た(91.4%)。女性988名(96.9%)、年齢は30歳代319名(31.3%)、40歳代314名(30.8%)であった。学歴は専門学校卒が793名(77.7%)であった。臨床看護経験は20年以上351名(34.4%)、糖尿病看護経験は5年以上575名(56.4%)、CDEJ資格ありが386名(37.8%)であった。

看護師のチーム促進の実践は「あてはまる」の割合が最も高い項目でも70.0%であり全体的に高いとはいえなかった。その中でも、看護師としてのケアの姿勢をチームにおいて示す項目や、メンバーとの信頼関係づくりの項目は比較的高い結果であった。一方、医師や他職種に対し看護の視点から表明し論理立てて説明する項目や、看護の立ち位置をチーム全体から判断し行動する項目は低い結果であった。またチーム連携状況では、連

携の意欲や努力は比較的高かったが、医師や他職種からうける信頼感やチーム連携の満足度は低い結果であった。

以上より、チーム促進の実践におけるスキルアップとチーム連携における自信や満足感向上について看護体制を含め今後検討する必要性が示された。

(2) 糖尿病ケアにおける看護師のソーシャルスキルおよび批判的思考態度の実態と糖尿病教育スタイルとの関係

返送された 1115 名中、有効回答 848 名(有効回答率 76.0%) を分析対象とした。

女性 819 名(96.6%)、年齢平均 38.5 ± 9.5 歳、糖尿病看護経験は平均 6.8 ± 5.5 年、日本糖尿病療養指導士あり 330 名(38.9%)であった。

糖尿病教育スタイルの得点平均：最も教育効果があるとされる生活心情がみえているスタイル 73.5 点であった。

ソーシャルスキルの得点平均は、カウンセリングスキル 76.0 点、他者受容スキル 73.5 点、ストレスマネジメント力 73.3 点、プレゼンテーション力 72.3 点、他者委任・他者援助スキル 70.4 点、アサーションスキル 70.1 点、自己カウンセリング・自己責任力 70.0 点、素直な自己表現 68.4 点、粘り強い交渉力 63.0 点であった。

批判的思考態度の得点平均は探求心 74.2 点、客観性 73.4 点、証拠の重視 68.1 点、論理的思考の自覚 61.8 点であった。

生活心情がみえている教育スタイルと、ソーシャルスキル、批判的思考態度の得点相関では、2 群に分けた独立性の検定では、最もまじいとされる生活心情がみえているスタイル得点とすべての下位尺度得点において統計学的に有意差がみとめられた。また、ソーシャルスキルおよび批判的思考態度得点では、一つを除きすべてで $r=0.2\sim 0.4$ の相関が認められた。

看護師の自己評価はすべて 80 点には及ばず、高くはないことが明らかになった。また、70 点には及ばなかった素直な自己表現、粘り強い交渉力、証拠の重視、論理的思考の自覚のスキルを看護師は身につける必要があると考えられる。生活心情がみえているスタイルとの相関はほとんどが弱い相関からある程度の相関で留まったものの関連は認められたため、生活心情がみえている糖尿病教育スタイルを向上させる看護師への教育方法は有用であることが示唆された。

(3) 「糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標」の信頼性・妥当性の検討

対象は 2)と同様である。調査内容は、「糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標」25 項目、外的基準としてソーシャルスキル尺度 27 項目(樋口ら)、批判的思考態度尺度 33 項目(平山ら)の 2 尺度を用いた。分

析は、項目分析、因子分析を行い、信頼性には Cronbach の α 係数、基準関連妥当性にはスピアマンの順位相関係数を用いた。

因子分析によって 25 項目すべてが 4 因子構造で説明された。第 1 因子「看護の視点からチームへ表明し発信する」13 項目、第 2 因子「糖尿病をもつ患者の心身と生活をふまえて支援する」4 項目、第 3 因子「チームとして患者と家族を含む意識をもつ」4 項目、第 4 因子「チームメンバーを尊重し育み合う」4 項目であった。 α 係数は各因子 0.84~0.92、25 項目全体でも 0.95 であった。また外的基準との相関では、25 項目合計点とソーシャルスキル尺度得点において $\rho=0.51$ 、批判的思考態度尺度得点において $\rho=0.52$ であった。

構成概念妥当性および内的整合性が確認された。外的基準 2 尺度との相関では中程度の相関が認められたことより併存的妥当性が確認された。以上より本実践指標は信頼性および妥当性が確認されたといえ、今後活用できると考えられる。

B. 看護師が糖尿病チーム医療を促進するスキルを高める教材作成と教育介入

3. 研究の方法

糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標 25 項目に基づき教材を作成した。導入編 25 項目の自己評価 解説編の 3 部構成の e-learning 教材である。

糖尿病看護に携わっている看護師を対象とし 944 施設に研究協力を依頼した。教材視聴後、参加者に教材評価および自身のチーム実践振り返りについて回答を求めた。看護師の実態は e-learning における糖尿病チーム医療の促進自己評価 25 項目の回答を用いた。

本研究は本学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

協力同意は 145 施設(15.3%)、e-learning ID とする無記名のメールアドレス登録は 106 施設 564 名であった。教材へのアクセス数 332 名(58.7%)、うち学習終了者 215 名(37.9%)であった。学習終了者の中でも“学習後アンケート”まで回答した者 183 名(32.4%)を分析対象とした。年齢 40.9 ± 9.7 才、糖尿病看護経験 8.8 ± 6.7 年、CDEJ 有資格者 92 名(50.2%)、糖尿病看護認定看護師 27 名(14.7%)であった。本教材は糖尿病ケアに携わっている看護師に役立つと思う 145 名(79.2%)、糖尿病チーム医療における看護の専門性について新たに気づきを得られた 126 名(68.8%)、私自身は今後、糖尿病チーム医療を看護の立場から促進していきたいと思う 156 名(85.2%)、私自身は今後糖尿病チーム医療を看護の立場から促進できると思う 98 名(53.5%)であ

った。また糖尿病チーム医療の促進自己評価では、視点1・2・3は78~74点、視点4のみ69点であった(100点満点)。

半数以上がCDEJを取得している糖尿病看護の専門性が高い集団において、本教材は看護師のチーム実践に役立つとの評価がある程度得られたといえる。先行研究同様、自己評価点が最も低かったのは視点4「看護的視点からチームへ表明し発信」であり、今後の教育介入による看護師の意識と行動の向上に役立つ可能性が高いと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(1) 雑誌論文(計5件)

Keiko Tasaki、Michiko Inagaki、Kiyoko Matsui、Tomomi Horiguchi: The current state of nurses' social skills and critical thinking dispositions, and their relationship with nurses' teaching styles in diabetes care. Journal of Tsuruma Health Science Society, 40(2), 33-44, 2017.(査読有)

多崎恵子、稲垣美智子、松井希代子、堀口智美: 看護師の糖尿病チーム医療を促進する実践およびチーム連携状況の実態. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 19(2), 139-147, 2015.(査読有)

多崎恵子、稲垣美智子、松井希代子、堀口智美: 糖尿病看護認定看護師の活動の実態と役割認識. 看護実践学会, 27(2), 52-58, 2015.(査読有)

多崎恵子、稲垣美智子: 「糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標」の内容的妥当性の検討. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 18(1), 5-13, 2014.(査読有)

多崎恵子、稲垣美智子: 糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標—原案の作成—. 金沢大学つるま保健学会誌, 37(1), 47-54, 2013.(査読有)

(2) 学会発表(計6件)

Keiko Tasaki、Michiko Inagaki: Nurse teaching styles, social skills, and critical thinking in diabetes patient education. World Diabetes Congress 2015, Vancouver, Canada, From 1st December to 4th December, 2015.

多崎恵子、稲垣美智子: 糖尿病チーム医療において看護師が困難ととらえる実践の構造. 第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2015年9月21日, 香川国際会議場(香川県高松市)

多崎恵子、稲垣美智子: 糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標の信頼性・妥当性の検討. 第34回日本看護科学学会学術集会, 2014年11月30日, 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)

多崎恵子、稲垣美智子: 看護師の糖尿病

教育スタイルとチーム医療を促進する意識との関係. 第19回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2014年9月21日, 岐阜都ホテル(岐阜県岐阜市)

多崎恵子、稲垣美智子: 糖尿病チーム医療を促進する看護師の意識と行動の実態. 第33回日本看護科学学会学術集会, 2013年12月7日, 大阪国際会議場(大阪府大阪市)

多崎恵子、稲垣美智子: 糖尿病看護認定看護師のチーム医療における活動および役割認識の実態. 第18回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2013年9月23日, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

多崎 恵子 (TASAKI, Keiko)
金沢大学・保健学系・准教授
研究者番号: 70345635

(2) 研究分担者

稲垣 美智子 (INAGAKI, Michiko)
金沢大学・保健学系・教授
研究者番号: 40115209

八木 邦公 (YAGI, Kunimasa)
金沢大学・医学系・准教授
研究者番号: 30293343

(3) 連携研究者

松井 希代子 (MATSUI, Kiyoko)
金沢大学・保健学系・助教
研究者番号: 90283118

村角 直子 (MURAKADO, Naoko)
金沢医科大学・看護学部・准教授
研究者番号: 30303283

(4) 研究協力者

浅田 優也 (ASADA, Yuuya)
藤田 結香里 (FUJITA, Yukari)